

大阪大学が誇る豪華な講師陣が揃い踏み。 第50回 大阪大学公開講座

数ある国立大学の中で、初めて総合的な公開講座を開いた大阪大学。つねに社会や人間を考えた「実学」の精神で講義を展開し、今年で50年目となります。

共通テーマ | 阪大発 研究最前線

●「かわいい」って何？ 一人はなぜ「かわいい」に惹かれるのかー

入野野 宏 (大阪大学大学院人間科学研究科教授)
9月18日(火) 18:30~20:00

私たちにとって身近な「かわいい」という言葉。日本の若者文化として注目されていますが、心理学の観点からも研究が進められています。最近の研究から明らかになってきた「かわいい」の真相と、この感情が私たちの生活にもたらす効果についてお話しします。

●脳のセルフケアをご家庭で！

関谷 毅 (大阪大学産業科学研究科教授)
9月25日(火) 18:30~20:00

心身ともに健康に過ごすためには、身体の健康管理とともに、脳の健康管理が欠かせません。多くのご家庭には、体温計、体重計、血圧計がありますが、これらでは認知症や脳梗塞など「脳の異常」には気づけません。本講義では、額に貼るだけで脳の状態を計測できる技術開発と商品化についてお話しします。

●源平合戦と鎌倉幕府の成立

川合 康 (大阪大学大学院文学研究科教授)
10月1日(月) 18:30~20:00

鎌倉幕府の成立を、イイクニ(1192年)やイイクニ(1185年)と覚えた人は多いでしょう。しかし、そのような理解は正確ではありません。源平合戦という戦争のなかで、鎌倉幕府が段階的に成立する生々しい様子についてお話しします。

●「月に吹く地球からの風」~月の科学の最前線~

寺田健太郎 (大阪大学大学院理学研究科教授)
10月11日(木) 18:30~20:00

私たちの暮らしにとても馴染み深い「月」。惑星科学的に見ると、衛星/惑星比の大きい特異な衛星で、月と地球は、互いに強く関わりながら進化してきました。最新成果を交えながら「月と地球の不思議な関係」について解説します。

- 会場/大阪大学中之島センター(大阪市北区中之島4-3-53)
- 定員/各講座120名(申込先着順) 応募者多数の場合には、参加人数の調整を行う場合があります。
- 受講料/全講義受講7,500円。全10講義のうち選択受講は、1講義につき1,500円。
- 申込先・問合せ/大阪大学共創推進部社会学共創課社会学共創係
TEL.06-6850-5016 http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/H30kouza/
(平日9:00~17:00、8月13日~15日を除く)

●日本の財政と将来負担を考える

赤井伸郎 (大阪大学大学院国際公共政策研究科教授)
10月17日(水) 18:30~20:00
財政赤字・財務拡大が続く日本。次世代との負担のバランスをどの様に考えるのが良いのか、消費税増税はいつどこまで行うべきかなど、歳入(増税)と歳出をどの様に改革していくことが望ましいのかを考えます。

●「氏が育ちか?」~ふたご研究が教えてくれること~

本多智佳 (大阪大学大学院医学系研究科附属ソニートリサーチセンター特任准教授)
10月22日(月) 18:30~20:00
私たち人間は、能力や性格、病気のかかりやすさなど、「遺伝」と「環境」の影響を受けていますが、その解明の鍵を握るのがふたご研究です。800人を超えるおとなのふたごにご協力いただいたプロジェクトを紹介し、ふたご研究が私たちの社会に役立つ可能性について考えます。

●東南アジアのイスラム教徒

菅原由美 (大阪大学大学院言語文化研究科准教授)
10月29日(月) 18:30~20:00
東南アジアには、現在約3億人のムスリムが暮らしていますが、世界最多数のムスリムを有するインドネシア、イスラムを国教とするマレーシア、少数派問題を抱えるタイ、フィリピン、ビルマなど、事情は各国によって大きく異なります。日本から最も近い地域に住むイスラム教徒たちについて、お話しします。

●iPS細胞を医薬品開発に役立てるには?

水口裕之 (大阪大学大学院薬学研究科教授)
11月8日(木) 18:30~20:00
ヒトiPS細胞は再生医療への応用だけでなく、毒性試験をはじめとする医薬品開発研究の応用にも大きな期待が寄せられています。講義では、ヒトiPS細胞から分化させた細胞(特に、肝臓、心筋、神経、小腸細胞など)がどのように医薬品開発に用いられるようとしているのか?について解説します。

●ラボカフェスペシャル featuring クリエイティブ・アイランド・ラボ中之島02 「世界の都市の中の“島”」

8月25日(土) 16:00~18:00
大阪の「中之島」は、堂島川と土佐堀川に挟まれた東西約3kmの中洲(島)です。水運の利を得て安土桃山時代以降に開拓、現代まで大阪の文化経済の中心地として発展してきました。一方、世界各地でも、中之島と同様に、パリのシテ島やベルリンのムゼウムスインゼルなど、文化芸術・学術拠点を軸にした創造的な都市開発の好例が多くあります。今回は、幅広い視野と独自の視点から建築評論、建築史のみならず、建築と美術のキュレーションを手がけ

●「普通の暮らし」を支えるために~デンマークの高齢者介護のしくみ~

石黒 暢 (大阪大学大学院言語文化研究科准教授)
11月22日(木) 18:30~20:00
高齢化率世界一の日本では、高齢者が重度の要介護状態になれば在宅での生活をあきらめざるをえないケースが多々みられます。一方デンマークでは、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けるためのしくみが整えられています。この差はどこにあるのでしょうか?一緒に考えたいと思います。

●ロボットを通じた人間理解

石黒 浩 (大阪大学大学院基礎工学研究科教授)
12月3日(月) 18:30~20:00
人間とそっくりなロボット、アンドロイドを開発すると、人間に関するいろいろなことが解ってきます。本講義では、様々なアンドロイドを紹介しながら、そこから解る人間の性質を議論します。

■WEBによる申込方法

1. 「WEB申込みページ」に入力してください。
http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/H30kouza/
2. 申込受付と講習料の振込み方法をE-mailでご案内します。
3. 講習料を指定の銀行口座へお振込みいただきます。
4. 講習料入金の確認後、「受講証」のはがきを発送します。

■ファクシミリによる申込方法

受講申込書を請求していただき必要事項をご記入の上、お送りください。

■お申込み・お問合せ

大阪大学共創推進部社会学共創課社会学共創係
TEL.06-6850-5016
(平日9:00~17:00、8月13日~15日を除く)

■受付期間 8月6日(月)~ 先着順

WEB申込みページの検索は、
第50回大阪大学公開講座 検索

る五十嵐太郎さんをお招きし、海外の文化島の事例や、コルビュジエ設計の難民收容船「アジュールフロタン」など都市における水辺の社会的・文化的活用について参照しながら、都市の中洲としての中之島の可能性について語り合います。定員50名程度
トークゲスト:五十嵐太郎(建築史家、東北大学大学院教授) カフェマスター:木ノ下智恵子(アートエリアB1運営委員) 主催:文化庁(平成30年度文化庁戦略的芸術文化創造推進事業)

2018年9月以降の予定は随時HPに掲載。
ラボカフェアートエリアB1 検索

共通テーマで大阪と京都を掘り下げる。

大阪・京都文化講座 2018年度後期

大阪大学大学院文学研究科・大阪大学21世紀懐徳堂・立命館大学文学部の共催講座。大阪・京都の自然・風土・地誌・都市空間について考え、今後の課題・問題点についても提起します。今期のテーマは「アジアから関西へ/関西からアジアへ」です。

今期のテーマ

アジアから関西へ/関西からアジアへ

日本の歴史を振り返るとき、アジアと日本の政治・軍事・宗教・文化等の動向が切っても切り離せない影響関係にあることが思い起こされます。例えば稲作の流入、古代国家形成と中国・朝鮮半島の関係、仏教の受容、遣隋使・遣唐使、宋・明貿易、元寇、朝鮮使節、日清・日露戦争、韓国併合、強制移民等々、トピックには枚挙にいとまがありません。本講座では、特に関西と関わり深い8つのテーマを取り上げて掘り下げていきます。そこには、今まで充分知られてこなかったアジアと関西の深い関係が浮かび上がるとともに、関西が常に日本とアジアをつなぐハブの役割をしていたことが改めて明らかになるでしょう。

●木簡から探る日朝文化交流

市 大樹 (大阪大学大学院文学研究科准教授)
10月15日(月) 14:00~15:40
受講料1,700円

当時は「ゴミ」として捨てられたはずの木片が、1000年以上の時を経て地中から掘り出され、当時の日常をよく伝える「宝物」として脚光を浴びています。この講演では、そうした木簡を読み解きながら、日朝文化交流の一面を浮かび上がらせてみたいと思います。

●戦前京都の朝鮮人留学生

水野直樹 (立命館大学文学部客員教授)
10月22日(月) 14:00~15:40
受講料1,700円

戦前の京都に学んだ朝鮮人留学生としては、詩人尹東柱がよく知られています。その詩集の日本語訳は何種類も出ていますが、尹東柱以外にも多くの朝鮮人が京都の大学や高等学校に学びました。彼ら/彼女らが京都で何を学び、どのようなことを感じたのか、卒業後はどのような生涯を送ったのか、などを考えます。

●異文化理解クラスタースタートアップミーティング「異文化交流がひらく未来~デンマークの演劇を事例に~」

8月29日(水) 19:00~20:30
私たちのクラスターでは、デンマークと日本の外交関係樹立150周年の記念年であった2017年、両国の関係の深化を目的として様々な活動を展開し、デンマークという国を、地理的にも遠く離れ、また言語も非常に異なるここ日本において紹介していく過程で、「異文化理解」とはどのような形で為されるものなのかということをめぐる様々な話し合いを重ねてきました。今回のミーティングでは、昨年度の活動について改めてご紹介するとともに、「言語教

●アジアのなかの近代関西大衆音楽: ジャズ、ドドンバ、雨の御堂筋

輪島裕介 (大阪大学大学院文学研究科准教授)
10月29日(月) 14:00~15:40
受講料1,700円

近代日本の大衆音楽の歴史は、専ら、欧米からの影響と、東京中心のメディアや産業の編成を通じて考えられてきました。それに対して本講座では、アジア・太平洋圏の文化的交流と、その一環としての関西という場所に注目して、音楽史の見直しを試みます。

●海を渡った立命館野球 —台湾・上海、そしてアメリカへ—

河原典史 (立命館大学文学部教授)
11月5日(月) 14:00~15:40
受講料1,700円

1923年に結成された立命館大学野球部は、1927年に初の海外遠征を行ないました。遠征先の台湾は、館長・中川小十郎が1925年まで台湾銀行頭取だった歴任地でした。野球部は、その後も1932年に上海へ遠征しました。早稲田大学や慶応大学の野球部が、野球技術を学ぶためにハワイやアメリカ本土へ遠征したのとは異なり、立命館では植民地の学生や野球部との交流が多かったのです。

●アジアから見た信長と天下統一

桃木至朗 (大阪大学大学院文学研究科教授)
11月12日(月) 14:00~15:40
受講料1,700円

信長に始まる天下統一はなぜできたのでしょうか。それは日本社会をどう変えたのでしょうか。国内の「国盗り合戦」でなく16~17世紀アジアと世界のダイナミックな動きの中で考えてみませんか。そのカギは堺にあります。

WEBからの申込みも可。
大阪・京都文化講座 検索

●江戸時代、京の僧侶と中国白話小説

上野隆三 (立命館大学文学部教授)
11月19日(月) 14:00~15:40
受講料1,700円

江戸時代。中国の小説『三国志演義』を翻訳した『通俗三国志』が人気を博します。訳者の湖南文山は、京都・天龍寺の僧であったと言われています。天龍寺と言えば京都五山。漢文学に通じた天龍寺の僧侶にとつての中国白話小説、『三国志演義』とはどういうものであったか、考えてみたいと思います。

●劇団維新派のアジア —『台湾の灰色の牛が背のびをしたとき』を中心に—

永田 靖 (大阪大学文学研究科教授)
11月26日(月) 14:00~15:40
受講料1,700円

劇団維新派は演出家故松本雄吉が主宰した、大阪を本拠にする現代前衛劇団でした。その作品ではしばしば大阪とアジアの関係を描いており、とりわけ戦前のアジア諸国への移民を扱った『台湾の灰色の牛が背のびをしたとき』(2010)は、大阪とアジアの近代と未来を指し示しています。ここではこの作品を中心に考察します。

●大阪・京都の華僑華人—内なる多文化への視座—

駒見一善 (立命館大学国際教育推進機構准教授)
12月3日(月) 14:00~15:40
受講料1,700円

「南京町」という元町の繁華街に中華街を持つ神戸の華僑華人は有名ですが、大阪・京都にも多くの華僑華人が居住し、華僑学校や華僑団体組織が存在します。本講義は、大阪・京都に暮らす華僑・華人の歴史、社会背景、拡大した新華僑の人々の動向から、隣人としての華僑華人との共生について考察します。



会社帰りにちょこっと寄り道。

ラボカフェ

参加費 無料

- 会場/アートエリアB1(京阪中之島線なにわ橋駅地下1Fコンコース) ●定員/各回により異なります。(当日先着順・入退場自由) ●問合せ/大阪大学21世紀懐徳堂 TEL.06-6850-6443 info@21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp
- 主催/アートエリアB1【大阪大学+NPO法人ダンスボックス+京阪ホールディングス(株)】 ●企画制作/大阪大学21世紀懐徳堂、NPO法人ダンスボックス